

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部	教授	西崎有多子
最終学歴	学位	専門分野
コロンビア大学ティーチャーズカレッジ大学院	MA	英語教育

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

現在の英語教育、特に小学校英語教育を理論・実践の両面から理解し、その目標を達成できる教員養成に寄与する。特に、児童の毎日の生活や体験を通して、教科書の中の英語だけではなく体験的な学びを常に念頭に置き、児童の実態に合わせた指導ができる教員養成する。

【目標】

専門演習においては3・4年生での個々の学生の希望する将来を見据えた主体的で活発なゼミ活動、ならびに全学共通科目の英語科目における学生の英語に関する興味関心と自発的学修意欲向上

【方針】

個々の学生が、自らの将来に対して何をすべきかを考え、自主的に前進するための必要なアドバイスを行なう。英語に関しては、色々な言葉や表現を簡単な英語で表現できる英語力を養い、英語でのコミュニケーションを身近にできるようにする。

【計画（方法）】

ゼミ内の学生同士（3・4年も含め）の交流を活発に行い、初等教育コース所属の学生を中心に小学校教員を想定した指導を多角的・実践的に行う。教職に就いているゼミの先輩たちとの交流や学会参加などを通して、学生たちが在学中に何をすべきかを自問し向上するよう指導する。卒業後の進路として教員を目指す学生に、積極的にアドバイスを行う。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

英語Ⅰ、英語Ⅲ、小学校英語、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

英語Ⅱ、英語Ⅳ、小学校英語教育法、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

専門演習Ⅲ、Ⅳの学生は、小学校と幼稚園への就職を目指していたため、色々なメディアからの幼少に関する教育関連の諸問題について理解を深め、意見交換を行った。

英語教材については、幼稚園、小学校で使用できる教材作成や実践を通して、自ら考え作成できる力の育成を行った。

教員採用試験については、3・4年生共に希望に合わせた過去問を中心に出题意図の分析や解答の導き方を繰り返し指導した。後期は、主に卒業研究を中心に、分析の仕方やお互いの原稿をモニ

ターで確認しながら、完成に向けて推敲の練習を繰り返し、よりよい研究結果に向けて努力をした。
英語の授業については、教科書に加えて、授業当日の海外のニュース等をリアルタイムで取り上げ、興味を喚起し見出しの英語と記事の概略の理解に導いた。

○作成した教科書・教材

小学校英語に関する授業では、フラッシュカードのようなアナログのカードの作成を完了し、デジタルのオリジナル教材の教材開発を行った。学生たちも各自で言語活動としての教材作成を行い、発表し、お互いのコメントに基づいて改良版の作成も行った。知識としては、理解しているつもりであっても、実際に教材を作成する場合は、細かな修正や深い知識が必要となることを理解し、目的に合った教材作成ができるような授業デザインを工夫することができた。

○自己評価

例年同様、個々の学生の夢と希望に合わせて将来に向けて最大限の指導を心掛けた。卒業した学生たちは、3つの小学校教員採用試験に合格し、幼稚園についても希望園への就職を果たした。3年生のゼミ生においても、教員採用試験の3年受験を行い、3名が良好な結果を得ることができた。卒業後の進路がほぼ確定している状況で、更に将来を見据えた指導と続けて行いたい。

II 研究活動

○研究課題

小学校英語に関する研究、小学校教員に必要な英語指導力、ならびに本学における英語教育に関する研究

○目標・計画

【目標】

小学校英語に関する研究と本学の学生に適した英語学習・小学校英語指導法の研究を行う。

【計画】

日本語と英語に共通する語彙とその関係等に着目し、児童がより体験的に興味を持って学ぶことのできる視点で教材開発を行う。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・白井克尚・今津孝次郎・山本かほる・伊藤数馬・丹下悠史・水野正朗・柿原聖治・西崎有多子『教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究』地域創造研究叢書 No.30、唯学書房、2024年、第9章担当、共著
- ・藤田利久・青木雅幸・西崎有多子・森久子『改訂新版 英語で学ぶオフィスコミュニケーション』西文社、2019年、第11章・第12章担当、共著
- ・西崎有多子・鈴木由季子・久保田香直・加藤拓由・山田幸子・岡井崇・藤田しおり・鷹巣雅英・清水万里子・山下桂世子（以上執筆者）、川村一代編著『1日10分 語彙・表現がしっかり定着！小学校外国語アクティビティ50』明治図書、2019年2月、アクティビティ9・14・21・29・35担当、共著
- ・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原清治・伊藤数馬『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』地域創造研究叢書 No.30、唯学書房、2019年2月、113頁の内、第2章担当、共著

(学術論文)

- ・西崎有多子・山本かほる「小学校における「資質能力目標」明確化による授業改善ー“この授業で何ができるようにするか”に着目して国語と英語を考えるー」『東邦学誌』2019年6月、第4巻、第1号、pp.91-104、共著 URL: https://aichi-toho.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=568&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における授業実践に必要な英語力の養成一次期学習指導要領を踏まえたアクティブラーニングをとおしてー」『東邦学誌』2018年12月、第47巻、第2号、pp.119-125、単著

(学会発表)

- ・西崎有多子「小学校英語における paraphrase (言い換え) 活用の可能性」小学校英語教育学会、第19回小学校英語教育学会北海道大会(全国大会)、北海道科学大学、2019年7月21日、単独
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」のアクティブラーニングを考えるー教材の世界から一歩踏み出し、自分らしく楽しく創造するー」小学校英語教育学会、第18回小学校英語教育学会長崎大会(全国大会)、長崎大学、2018年7月29日、単独

(特許)

なし

(その他)

なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

なし

○所属学会

小学校英語教育学会、日本児童英語教育学会、大学英語教育学会、中部地区英語教育学会

○自己評価

研究面では明らかな形を伴う結果を出すことができなかったが、学生の指導面については、学生たちの希望に沿う結果が得られたことは喜ばしかった。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

キャリア支援委員会委員、教育学部初等コース所属教員として職責を果たす。

【計画】

学生のキャリア支援に関する事項について、貢献する。

○学内委員等

教育学部のキャリア支援委員として学外開催のイベントにも参加し、責を果たした。

○自己評価

概ね役割を果たすことができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

学会やその他の研究会や勉強会において貢献する。

【計画】

オンライン・対面の両面で、学会や勉強会に積極的に参加し、そこで得られた情報を、学会や大学内で学生や授業にも取り入れて活かしていく。

○学会活動等

学会への積極的な参加

○地域連携・社会貢献等

特になし

○自己評価

あまり貢献できなかった。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

オンライン・対面の両面で、学会や勉強会に積極的に参加し、常に最新の情報を得て、研究や授業に還元する。

VI 総括

諸事情により、遠方での学会への対面での参加等は難しかったため、オンライン参加が多くなり、落ち着いて研究を行う態勢を整えることができなかったが、授業内外での学生への指導には注力できた。彼らからのコメントを参考に、更に授業改善に取り組みたい。

以 上